

民間事業者からの提案を希望するテーマ一覧(令和8年8月現在)

ご提案を希望される場合は、政策推進課(公民連携デスク)までご連絡ください。【問合せ先】kikaku@city.iwata.lg.jp

No	総合計画の 位置づけ	テーマと概要	
1	子どもたちの安心	「こどもの権利」の普及啓発	
		目指す姿	こどもの権利を市民全体へ浸透させるとともに、こどもの意見を引き出し、施策へ反映できる人材を地域で育成し、ユニセフ日本型CFCI実践自治体を目指します。
		現状	条例やリーフレットの作成、こども若者会議を進めていますが、こどもの権利の認知度はまだ高くありません。また、意見聴取を担うファシリテーターも不足しています。
		求める提案	普及啓発プログラムやこどもの参加型ワークショップの提案、こども若者会議の運営支援(運営サポート、ファシリテーター派遣)等ファシリテーターの養成を期待しています。
		提供できるサポート	・将来的なこども若者議の運営委託に向けた協議 ・全国的にも希少なCFCI候補自治体の事例として発信機会の提供
		担当課	こども部 こども未来課
2	子どもたちの安心	「ひと・ほんの庭 にこっと」を活用した学びと交流の創出	
		目指す姿	子どもが多様な学びに触れ、対話を深める機会を増やし、「にこっと」を多世代が集う交流拠点として活性化します。
		現状	未就学児向け事業は充実している一方、小中学生向けプログラムが不足しており、新設された2階ギャラリーの活用方法も模索しています。
		求める提案	小学生向け体験や講座の企画、講師派遣、施設内シアターを活用した体験・対話型コンテンツ等をご提案ください。また、2階ギャラリーの活用企画も募集しています。
		提供できるサポート	・会場(にこっと)の提供、イベント当日の運営補助・アンケート協力 ・SNS等による情報発信(広報・参加者募集等)
		担当課	こども部こども若者家庭センター ひと・ほんの庭 にこっと
3	暮らしと健康の安心	フレイル状態の早期発見	
		目指す姿	フレイル状態を早期に発見、適切な支援に繋げることで、高齢者が住み慣れた地域で健康に暮らし続けられるまちを目指します。健康寿命を延伸し、将来的な介護需要の抑制を目指します。
		現状	地域リハビリテーション活動支援事業を実施していますが、フレイル状態の方を早期に把握する手段が限られており、支援につながる件数は想定を下回っています。現在は、新規の総合事業対象者と本人や家族からの相談が中心となっています。
		求める提案	フレイル状態を早期に発見し、適切な支援につなげる仕組みやサービスをご提案ください。既存の健診データや日常生活の変化を活用した新たなアプローチなどを期待しています。
		提供できるサポート	・地域包括支援センター・リハビリ専門職とのネットワーク ・庁内関係部署との調整
		担当課	健康福祉部 福祉政策課

民間事業者からの提案を希望するテーマ一覧(令和8年8月現在)

ご提案を希望される場合は、政策推進課(公民連携デスク)までご連絡ください。【問合せ先】kikaku@city.iwata.lg.jp

No	総合計画の 位置づけ	テーマと概要	
4	暮らしと健康の安心	認知症の早期発見・早期対応	
		目指す姿	認知症の兆候を早期に発見し、適切な受診や支援につなげることで、認知症の発症や進行をできる限り遅らせ、高齢者が安心して暮らせるまちを目指します。
		現状	高齢者の増加に伴い認知症の方の増加が見込まれる一方で、初期段階を把握する有効な手段がありません。認知症サポーター養成や普及啓発に取り組んでいますが、早期発見につながる新たな仕組みが求められています。
		求める提案	認知症の早期発見や相談・受診につながるサービス、デジタル技術、チェックツールなどをご提案ください。高齢者本人だけでなく家族や地域も活用できる仕組みを期待しています。
		提供できるサポート	・認知症サポーター(2.2万人)のネットワークの活用 ・市立総合病院、認知症サポート医との連携
		担当課	健康福祉部 福祉政策課
5	暮らしと健康の安心	高齢者のボランティア活動への参加促進	
		目指す姿	高齢者が生きがいや役割を持ち、ボランティア活動や地域活動等へ参加する環境を整えることで、健康寿命の延伸を目指します。
		現状	高齢者サロンやボランティア登録制度などを実施していますが、活動の担い手不足や参加者の把握が課題となっています。高齢者を主体とした活動であることからアプリの利用は難しく、新たな参加促進策が必要です。
		求める提案	ボランティア参加へのきっかけづくりや継続参加を促す仕組みをご提案ください。ポイント制度や参加管理だけでなく、高齢者以外も巻き込める新しい社会参加の仕組みも歓迎します。
		提供できるサポート	・住民への直接訴求・高知が可能な地域コミュニティとの連携 ・実証をもとに内閣府補助金等の活用も検討
		担当課	健康福祉部 福祉政策課
6	暮らしと健康の安心	現役世代(30～40代)のスポーツ実施率向上	
		目指す姿	仕事や子育て世代でも無理なく運動を続けられる仕組みを構築し、市民の健康増進とウェルビーイング向上を目指します。
		現状	R6市民スポーツ意識調査により、30～40代のスポーツ実施率が他の年代に比べて低いことが明らかになりました。家事・育児等により運動習慣を持ってない層に対して、継続的に参加できる仕組みが不足しています。
		求める提案	30～40代が継続できるユニークなスポーツ・運動プログラム(デジタルツール・アプリを活用した運動習慣化の仕組み等)を募集します。ウォーキングマップなどの既存施策と接続できる提案も募集します。
		提供できるサポート	実証の場(体育館・グラウンド等)の提供 地域のスポーツチームとの連携によるブランディング展開
		担当課	スポーツ文化観光部 スポーツのまち推進課

民間事業者からの提案を希望するテーマ一覧(令和8年8月現在)

ご提案を希望される場合は、政策推進課(公民連携デスク)までご連絡ください。【問合せ先】kikaku@city.iwata.lg.jp

No	総合計画の 位置づけ	テーマと概要	
7	暮らしと健康の安心	ウォーキングを活用した健康づくり	
		目指す姿	市民が楽しみながら歩く習慣を身につけ、健康づくりとスポーツ実施率向上につなげます。
		現状	ウォーキングマップの作成をしていますが、活用方法について課題だと認識しています。健康づくりとスポーツ実施率向上のために、活用される方法を求めています。
		求める提案	ウォーキングマップの新展開(スタンプラリーや世代を問わず使いたくなるコンテンツ化やイベントなど)の提案を募集します。商業施設や企業と連携した健康プログラムや継続参加を促すインセンティブ設計などを期待します。
		提供できるサポート	・既存のウォーキングマップやコース状況、イベントノウハウの提供 ・SNS等による情報発信(広報・参加者募集等)
		担当課	スポーツ文化観光部 スポーツのまち推進課
8	まちづくりと防災への安心	都市計画マスタープラン・立地適正化計画の認知度向上	
		目指す姿	都市計画マスタープランや立地適正化計画を、市民とともに育てる「生きた計画」とし、まちづくりへの関心や参加意識を高めます。特に若い世代が計画策定段階から関わり、まちづくりを身近に感じられることを目指します。
		現状	市HPでの情報発信や地域説明会などを実施していますが、アンケートでは計画の認知度が非常に低い結果となりました。専門的な内容が多く、市民に分かりやすく伝えることや、若い世代へのアプローチが十分ではないことが課題です。
		求める提案	若い世代(20代以下)をはじめ、多くの市民が都市計画を身近に感じられる情報発信や参加の仕組みをご提案ください。デジタル技術やイベント、学校との連携など、計画への理解と参加意識を高める新しいアイデアを期待しています。
		提供できるサポート	・全国共通の行政課題に取り組む先進事例としての発信支援 ・地域スポーツチームなど地域資源との連携検討
		担当課	建設部 都市計画課
9	まちづくりと防災への安心	学習交流センターの新たな利活用	
		目指す姿	磐田駅前の複合ビル3階に位置する学習交流センターを、高校生だけでなく社会人や地域住民、企業も気軽に利用できる交流・学びの拠点として活性化し、多世代が集う施設を目指します。
		現状	学習ルームは高校生を中心に利用されていますが、くつろぎ・憩いルームは利用率が低いことが課題となっています。また、「高校生が利用する施設」というイメージが強く、新たな利用層の開拓が進んでいません。
		求める提案	学習交流センター全体を活用し、昼間の利用促進や新たな交流を生み出す事業をご提案ください。地域住民や企業の利用、テレワークやイベントなど、多様な活用方法を期待しています。
		提供できるサポート	・公共施設を活用した実証フィールドの提供 ・施設利用に関する協議・広報支援
		担当課	自治市民部 まなび推進課

民間事業者からの提案を希望するテーマ一覧(令和8年8月現在)

ご提案を希望される場合は、政策推進課(公民連携デスク)までご連絡ください。【問合せ先】kikaku@city.iwata.lg.jp

No	総合計画の位置づけ	テーマと概要	
10	まちづくりと防災への安心	遊休資産を活用した新たな公共サービスの創出	
		目指す姿	遊休資産を民間事業者のノウハウやアイデアを活用して有効活用し、新たな公共サービスの提供や地域活性化につなげます。完全売却ではなく、地域に根差した持続可能な施設運営を目指します。
		現状	公共施設の老朽化や人口減少を背景に、遊休資産の活用が課題となっています。公共施設等総合管理計画の策定や未利用地の公表、スモールコンセッションなどを進めていますが、活用事例やノウハウが十分に蓄積されていません。
		求める提案	廃校や未利用地などの遊休資産を活用した事業をご提案ください。スモールコンセッション・PPP/PFIに限らず、地域サービスと民間事業を組み合わせた新しい活用方法や、市の負担軽減につながる仕組みを期待しています。
		提供できるサポート	・遊休資産・未利用地に関する情報提供(廃校4施設など) ・歴史的文化財、地場スポーツチームの活用
		担当課	企画部 資産経営課
11	まちづくりと防災への安心	「磐田消防」のブランド価値向上と戦略的広報	
		目指す姿	消防行政への理解を深めるとともに、防火・防災意識の向上や救急車の適正利用につなげます。また、消防の魅力を発信し、将来の担い手となる人材の確保や、市民から親しまれる消防組織を目指します。
		現状	SNSや広報誌などによる情報発信を行っていますが、若年層や現役世代への訴求力には課題があります。また、採用応募者数が減少しており、組織の魅力を効果的に伝える新たなブランディングが求められています。
		求める提案	消防のイメージ向上や市民への情報発信につながる企画をご提案ください。イメージキャラクター「べっくん」を活用した商品開発やイベント、採用強化につながるSNS・動画コンテンツ、パンフレットデザインなどの政策提案等を期待しています。
		提供できるサポート	・消防施設や車両等の活用協力 ・SNS・広報誌等による情報発信
		担当課	消防本部 消防総務課
12	まちづくりと防災への安心	実践的な消防訓練フィールドと資機材の共同開発	
		目指す姿	実際の災害現場に近い訓練環境を整備するとともに、消防職員の現場ニーズを反映した資機材を民間事業者と共同で開発し、災害対応力の向上を目指します。
		現状	災害の激甚化・多様化に対応するため、より実践的な訓練環境が求められています。また、火災件数の減少により若手職員の実戦経験が不足しており、現場を再現した訓練場所の確保が課題となっています。
		求める提案	訓練フィールドの提供や、自社の技術や知見を活かした商品開発をご提案ください。
		提供できるサポート	・消防職員との意見交換、実際の消防現場のリアルなフィードバック ・SNS・広報誌等による情報発信
		担当課	消防本部 消防総務課

民間事業者からの提案を希望するテーマ一覧(令和8年8月現在)

ご提案を希望される場合は、政策推進課(公民連携デスク)までご連絡ください。【問合せ先】kikaku@city.iwata.lg.jp

No	総合計画の 位置づけ	テーマと概要	
13	まちづくりと防災への安心	廃棄消防資材を活用したアップサイクルの推進	
		目指す姿	消防用ホースや防火衣など、役目を終えた消防資材を新たな製品として再生し、循環型社会の実現と「磐田消防」のブランド価値向上を目指します。アップサイクル製品を通じて、市民が消防をより身近に感じ、防火・防災意識の向上につながることを目指します。
		現状	消防資材は高い耐久性を備えていますが、耐用年数を迎えると劣化の程度に関わらず廃棄されます。一部は訓練用として再利用していますが、加工や商品企画のノウハウがなく、有効活用が進んでいません。
		求める提案	バッグやインテリア、ノベルティなど高付加価値なアップサイクル製品の企画・製造や、消防資材の特性を生かした加工技術をご提案ください。ふるさと納税返礼品への展開も視野に入れています。
		提供できるサポート	廃棄予定消防資材の提供(定期的に発生) 契約方法や返礼品化の検討支援
		担当課	消防本部 消防総務課
14	まちづくりと防災への安心	新消防庁舎「市民展示スペース」の魅力向上	
		目指す姿	「日本一行ってみたい消防署」を目指し、防災に関心のない人でも気軽に訪れたい、市民に開かれた展示空間を実現します。消防と市民が日常的に交流し、防災を「学ぶもの」から「共有するもの」へ転換することを目指します。
		現状	令和11年度供用開始予定の新消防庁舎では、市民展示スペース(約322㎡)を整備予定です。しかし、従来型のパネル展示では若年層への訴求が難しく、魅力的なコンテンツづくりが課題となっています。
		求める提案	体験型展示やデジタル技術、ゲーミフィケーション、SNS映えする空間づくりなど、防災への関心が低い層でも訪れたい展示・運営手法をご提案ください。
		提供できるサポート	展示スペース(約322㎡) R10当初予算計上を視野に、優れた提案は企画・レイアウトへ反映
		担当課	消防本部 消防総務課
15	まちづくりと防災への安心	消防庁舎への鳩の侵入・営巣対策	
		目指す姿	鳩の侵入や営巣を抑制し、車両や庁舎の衛生環境を改善するとともに、新消防庁舎にも展開できる持続可能な鳥害対策モデルを構築します。
		現状	高い天井や前面開放型車庫の構造上、鳩が侵入・営巣しやすく、糞害や設備故障、健康被害が発生しています。ネットや蛇のおもちゃなどの対策を実施していますが、十分な効果は得られていません。全国で共通する課題です。
		求める提案	非殺傷・環境配慮型の鳥害対策や、新しい防鳥技術(レーザー・音波・忌避技術等)をご提案ください。フィールドテストとしての実証も歓迎します。
		提供できるサポート	実証フィールドの提供、現場からのフィードバック 全国展開を見据えたモデルケース化
		担当課	消防本部 消防総務課

民間事業者からの提案を希望するテーマ一覧(令和8年8月現在)

ご提案を希望される場合は、政策推進課(公民連携デスク)までご連絡ください。【問合せ先】kikaku@city.iwata.lg.jp

No	総合計画の 位置づけ	テーマと概要	
16	まちづくりと防災への安心	中心市街地で活躍する民間プレイヤーの育成・支援	
		目指す姿	民間主体のまちづくりを推進し、中心市街地の魅力向上と関係人口の増加を図ります。イベントだけに頼らず、新たな店舗やプレイヤーが継続的に生まれるまちを目指します。
		現状	イベント開催による一時的な賑わいは生まれていますが、商店への回遊や持続的な活性化にはつながっていません。一方で、若手店主による任意団体が積極的に活動しており、民間主体のまちづくりが動き始めています。
		求める提案	民間プレイヤーの活動を後押しする仕組みや、人材育成、情報発信、効果の可視化、関係人口創出につながる提案を募集します。リノベーションまちづくりや街の個性をつくるクラフトビール等の新たなコンテンツづくりも歓迎します。
		提供できるサポート	任意団体との連携 市の「リノベーションまちづくり」事業としての位置づけ、柔軟な支援
		担当課	経済産業部 産業政策課
17	まちづくりと防災への安心	産業の脱炭素化	
		目指す姿	市内中小企業の脱炭素経営取組を通じ、2050年カーボンニュートラル実現と地域産業全体の競争優位性の獲得が同時に達成されること
		現状	産業部門は市内温室効果ガス排出量の約半分を占めていますが、市内企業の9割以上を占める中小企業では「何から始めればよいかわからない」「費用をかけられない」という声が多くあります。まずは自社のエネルギー使用量を把握し、脱炭素への意識を高めることが課題です。
		求める提案	中小企業が低コストで自社のCO2量を把握・管理できるあるいは対策効果を可視化できるツールや、事業成長と脱炭素を両輪で進めることができる取り組みの提案を期待しています。
		提供できるサポート	市内中小企業への周知、市内企業とのマッチング支援
		担当課	環境水道部 環境課 ・ 経済産業部 産業政策課
18	まちづくりと防災への安心	事務の脱炭素化	
		目指す姿	公共施設の温室効果ガス排出量を削減し、行政自らが脱炭素のモデルとなることで、市内全体の脱炭素を牽引します。
		現状	LED化や環境マネジメントなどを進めていますが、2030年度目標の達成は厳しい状況です。また、既存施設への太陽光発電設備導入も難しく、新たな創エネやCO2排出量削減の手法が求められています。
		求める提案	公共施設向け省エネ設備導入に関する提案や、設備更新以外でCO2を削減する仕組みを期待しています。特に、費用対効果に優れた提案や、効果が可視化できる提案を期待します。
		提供できるサポート	省エネルギー最適化診断の実施実績・データの共有 公共施設のLED化など既存取組との連携
		担当課	環境水道部 環境課

民間事業者からの提案を希望するテーマ一覧(令和8年8月現在)

ご提案を希望される場合は、政策推進課(公民連携デスク)までご連絡ください。【問合せ先】kikaku@city.iwata.lg.jp

No	総合計画の位置づけ	テーマと概要	
19	まちづくりと防災への安心	市民の環境に配慮した生活様式(デコ活)の促進	
		目指す姿	市民一人ひとりが環境問題を自分ごととして捉え、日常生活の中で自然に環境配慮行動を選択するまちを目指します。
		現状	補助制度やイベントを実施していますが、更なる環境問題への意識醸成が必要です。企業と連携したPRや、楽しみながら参加できる仕組みづくりが求められています。
		求める提案	行動変容を促すアプリ・ポイント制度や、イベント・商業施設等での啓発、スポーツや健康などの異分野とコラボした市民参加の仕組みを期待しています。
		提供できるサポート	・市内イベント、環境啓発ブースへの共同出店機会 ・SNS・広報誌等による情報発信
		担当課	環境水道部 環境課
20	まちづくりと防災への安心	観光周遊を促進する新たな二次交通サービスの創出	
		目指す姿	公共交通だけでは移動しにくい市内の観光地を、誰もが快適に周遊できる環境を整えます。観光交流客数や市内滞在時間、観光消費額の増加につなげるとともに、環境負荷の少ない持続可能な移動手段の実現を目指します。
		現状	市内の観光地は各地に点在しており、車以外では周遊しにくい状況です。路線バスは採算性の課題から新たな路線整備が難しく、レンタサイクル事業も利用者数と維持管理コストのバランスが取れず終了しました。持続可能な二次交通モデルの構築には至っていません。
		求める提案	公共交通を補完し、観光客が市内を快適に周遊できる新たな交通サービスをご提案ください。シェアサイクルや小型モビリティ、オンデマンド交通など、脱炭素や地域活性化にも寄与し、公費に頼り続けることなく継続運営できるビジネスモデルを期待しています。
		提供できるサポート	・公共施設や観光施設を活用した実証フィールドの提供 ・警察・道路管理者など関係機関との調整、観光政策との連携・広報協力
		担当課	スポーツ文化観光部 観光政策課
21	ま未来と仕事の安心	スタートアップと地域産業によるイノベーション創出	
		目指す姿	・市内企業とスタートアップによる共創、協業の継続的発生による産業クラスターの形成 ・磐田市が「イノベーションが生まれるまち」として認知される
		現状	・製造業への偏重による、急速に変化する社会情勢への適応力への懸念 ・人材・資金不足等、中小企業による新産業創出を阻む多様な課題 ・自治体財源を利用した事業予算
		求める提案	・地域産業と親和性の高い分野(モビリティ、製造業、ロボティクスなど)を中心とした、共同開発、実証、事業化につながる提案。 ・持続可能なエコシステムの構築に寄与する提案。
		提供できるサポート	・地域企業とのネットワーク、マッチング。 ・職員と産業イノベーションマネージャーによるスピード感ある対応
		担当課	経済産業部 産業政策課

民間事業者からの提案を希望するテーマ一覧(令和8年8月現在)

ご提案を希望される場合は、政策推進課(公民連携デスク)までご連絡ください。【問合せ先】kikaku@city.iwata.lg.jp

No	総合計画の 位置づけ	テーマと概要	
22	未来と仕事の安心	磐田産レモンのブランディングと地域経済の活性化	
		目指す姿	磐田産レモンの付加価値と収益性の向上を図ることで、若い世代が将来に希望と期待を持てる持続可能な産地づくりを推進し、レモンを活用した地域産業の振興と地域活性化を目指します。
		現状	お茶農家の減少を背景に、レモン栽培への転換を進めていますが、生産者への訴求や収益モデル、ブランド戦略が十分に構築できていません。現在の栽培面積は約12haで、収穫本格化はこれからです。
		求める提案	磐田産レモンのブランド戦略全体のプロデュースや収益モデルの提案、生産者・JA・加工業者等をつなぐ新たな組織づくり、消費者・生産者双方へのブランディングをご提案ください。
		提供できるサポート	・産地形成に関連する補助金の活用 ・農業者や食品関連会社とのネットワーク
		担当課	経済産業部 農林水産課